

# 令和5年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源や様々な活動を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源や地域の様々な活動を連携させることにより、まちとしての魅力が向上するとともに、新たな「コト」に取り組む多くの人が集まり、まちが賑わっています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光資源データベース登録数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				-					1,900
実績	-				1,752					
指標名	区が後援・共催した民間主体の観光関連事業件数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				40					45
実績	33				27					

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
令和3年度実施の区内循環バス利用実態調査によると、区内循環バスの利用実態が、区民の日常利用となっていることから、地域公共交通計画の見直しに合わせて、事業の位置づけを検討していく必要がある。	R2	136,316
	R3	146,489
	R4	175,724

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	実態に合わせた事業計画の見直しを行い、事業を再構築する必要がある。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
費用対効果の観点から、一定の見直しが必要であるため。	
【今後の具体的な方針】	
地域公共交通計画策定とともに、区内循環バスのあり方を整理していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	直近の評価内容
					年度目標値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	区内循環バス運行事業費	167,193	8,997	176,190	80.0%	改善・見直しの上継続
					82.2%	令和4年度
2	モビリティ事業	8,531	2,454	10,985	80.0%	改善・見直しの上継続
					78.9%	令和4年度
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

# 令和5年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源や様々な活動を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事業名	区内循環バス運行事業費		1
目的	主要な駅、観光エリア、公共施設を巡る区内循環バスを運行することで、観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上を図る。		主管課・係(担当)
			都市計画課・公共交通担当 5608-1263
対象者	区民及び観光客		
根拠法令 関連計画	墨田区区内循環バス事業計画書		
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託
	人員体制・委託先		京成バス株式会社
事業内容	運行事業者である京成バス(株)が、区との協定に基づき、南部ルート(両国・錦糸町ルート)、北西部ルート(向島・鐘ヶ淵ルート)、北東部ルート(八広・立花ルート)の3ルートを運行している。なお、京成バス(株)に対して、運行にかかる収支不足額及び障害者の乗車に係る運賃相当額を補助している。 【運行回数/日 ※令和5年4月1日現在】 (1)南部ルート(両国・錦糸町ルート) 平日52便、土曜・日曜・祝日49便 (2)北西部ルート(向島・鐘ヶ淵ルート) 平日44便、土曜・日曜・祝日43便 (3)北東部ルート(八広・立花ルート) 平日56便、土曜・日曜・祝日53便		
経過	開始年度	平成23年度	終了予定
	平成23年度 区内循環バス運行事業者の決定、区内循環バスの運行開始 平成25年度 利用実態調査の実施 平成27年度 運行ルートの一部変更(南部ルート及び北西部ルート) 令和元年度 「墨田区総合運動場」バス停設置に伴う北西部ルートの一部変更 令和3年度 利用実態調査の実施 令和5年度 「京成曳舟駅」バス停設置に伴う北西部ルートの一部変更		
議会質問 の状況	令和4年6月定例会 循環バス車内での歴史紹介動画などのリニューアルについて 令和4年11月決算特別委員会 総合交通戦略の策定について 令和4年12月地域産業都市委員会 区内循環バスのルート変更について 新保健施設等複合施設への乗り入れについて		
その他 特記事項	令和5年4月 産業観光部より都市計画部に事務移管された。		

予算・決算額推移(単位:千円)	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算現額(事業費)	98,768	97,763	144,386	141,057	175,887	185,709
A.決算額(令和5年度は見込み)	97,687	97,462	136,316	140,931	167,193	185,709
財源	国					
	都					
	その他					
一般財源	97,687	97,462	136,316	140,931	167,193	185,709
執行率(%)	98.9%	99.7%	94.4%	99.9%	95.1%	100.0%
B.人コスト	7,875	6,990	9,704	9,675	8,997	/
総事業決算額(A+B)	105,562	104,452	146,020	150,606	176,190	/
予算書P(令和5年度)	P 206 4		執行実績報告書P(令和4年度)		P 147 4(1)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和3年度（決算）			令和4年度（決算）			令和5年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報酬	運行検討会	35	報酬	運行検討会	70	報酬	運行検討会	80
需用費	センサーの修繕	383	需用費	センサーの修繕	132	需用費	センサーの修繕	132
委託料	千葉大委託等	5,344	委託料	乗降データサービスの分析外	344	委託料	停留所板面変更外	841
委託料（繰越明許）	利用実態調査	5,170	補助金	運行経費等補助	166,643	工事請負費	停留所の新設・撤去	1,100
補助金	運行経費等補助	130,000				備品購入費	センサーの購入	3,165
						補助金	運行経費等補助外	180,391

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	1日当たりの平均乗車人数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		4,500	R7	目標	4,500	4,500	4,500	4,500
				実績	4,119	4,053	3,934	3,736
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
		実績	2,698	2,891	3,104			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業計画書に規定された目標値であるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	生活環境評価(交通の便)における肯定的評価(住民意識調査)				単位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
80		R7	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	
			実績	77.4		79.0		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	
	実績	82.6		82.2				
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民の生活利便性の向上に資するという事業目的に対する成果指標として適切と思われるため								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	令和3年度実施の実態調査に基づき、一定の見直しは必要である。事業開始から10年経ち、区民の足として定着している現状を踏まえた上で、費用対効果の観点も含めて事業の見直しを図っていく。

課題・問題点
新型コロナウイルス感染症の影響から、令和2～4年度の間、利用状況が低迷している。テレワークの普及などによる移動需要の減少傾向も踏まえると、今後、コロナ前まで利用者が回復するかどうか懸念がある。また、土日休日を中心に道路渋滞が発生し、一部時間帯で恒常的な遅延が発生しており、時刻表どおりの運行ができないことから、バスの利用状況に悪影響を与えている。

# 令和5年度 補助金評価シート

補助金名称	区内循環バス運行経費の一部補助			主管課・係（担当）		
根拠法令	墨田区内循環バスの運行に関する協定			都市計画課・公共交通担当		
補助概要	運行にかかる収支不足額及び障害者の乗車に係る運賃相当額を補助			5608-1263		
目的	観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上					
対象	区民及び観光客					
基準	区独自基準					
補助条件	(1) 運行に係る各ルートにおける運賃収入等から運行経費を差し引いた収支不足額に対して全額を補助 (2) 障害者手帳等保有者及び障害者手帳等保有者と同乗する介助者1名分の乗車に係る経費について運賃相当額を補助 (3) 車両を購入する場合には減価償却費、車両を借り上げる場合には借上げに要する費用を補助					
経過	開始年度	平成24年度（事業開始は平成23年度）		終了予定		
	(1) 平成24・25年度はプロポーザル提示額を補助額としていたが、利用者数が当初の計画数値に達しなかったこともあり、平成26年度より段階的に補助額を増額している。 (2) 令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症による利用者数減による収支不足分として、予算額を増額した。 (3) 協定期間終了後の扱いについて京成バス（株）と協議した結果、収支不足額の全額を補助することとなったため、令和4年度より、予算額を増額している。					
議会質問の状況	令和4年6月定例会 令和4年11月決算特別委員会 令和4年12月地域産業都市委員会			循環バス車内での歴史紹介動画などのリニューアルについて 総合交通戦略の策定について 区内循環バスのルート変更について 新保健施設等複合施設への乗り入れについて		
その他特記事項	令和5年4月 産業観光部より都市計画部に事務移管された。					

予算・決算額推移（千円）		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額（事業費）		95,000	95,000	135,000	130,000	176,631	179,741
決算額（令和5年度は見込み）		95,000	95,000	135,000	130,000	166,643	179,741
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		95,000	95,000	135,000	130,000	166,643	179,741
執行率（%）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.3%	100.0%

補助金の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	1日当たりの平均乗車人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		4,500	R7	目標	4,500	4,500	4,500	4,500
				実績	4,119	4,053	3,934	3,736
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
		実績	2,698	2,891	3,104			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業計画書に規定された目標値であるため							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	生活環境評価（交通の便）における肯定的評価				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	R7	目標	80.0	80.0	80.0	80.0
				実績	77.4		79.0	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	
実績		82.6		82.2				
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民の生活利便性の向上に資するという事業目的に対する成果指標として適切と思われるため								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	令和3年度実施の実態調査に基づき、一定の見直しは必要である。事業開始から10年経ち、区民の足として定着している現状を踏まえた上で、費用対効果の観点も含めて事業の見直しを図っていく。

課題・問題点
新型コロナウイルス感染症の影響から、令和2～4年度の間、利用状況が低迷している。テレワークの普及などによる移動需要の減少傾向も踏まえると、今後、コロナ前まで利用者が回復するかどうか懸念がある。また、土日休日を中心に道路渋滞が発生し、一部時間帯で恒常的な遅延が発生しており、時刻表どおりの運行ができないことから、バスの利用状況に悪影響を与えている。

# 令和5年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源や様々な活動を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事業名	モビリティ事業		2
目的	区内回遊の足であり、区民の身近な交通手段である地域公共交通を長期的に維持・確保していくため、地域事業者及び先進技術を有する事業者の協力の下、新たなモビリティサービスの実証実験を行う。		主管課・係（担当）
			都市計画課・公共交通担当 5608-1263
対象者	区民等		
根拠法令 関連計画	次世代モビリティサービスに関する連携協定書（令和3年4月締結）		
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託 人員体制・委託先 MONET Technologies(株)、(株)日の丸リムジン
事業内容	<p>令和3年度に策定した実施計画に基づき、運行事業者を公募し、(株)日の丸リムジンを選定した。当初の予定では、令和4年2～3月実施予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和4年度に実施を繰り越した。</p> <p>令和4年度6～7月の実施を目指していたところ、関係機関との再度の協議が必要となったことから、再度実施を延期し、令和4年11～12月に実施した。</p> <p>【実施エリア】 八広・東墨田・立花 ※エリア外乗降場所として押上駅前を予定</p> <p>【運行時間】 午前10時～午後6時30分</p> <p>【車種・台数】 9人乗りワゴン車・2台</p> <p>【運賃】 大人(中学生以上):200円、子ども(小学生):100円、未就学児:無料</p>		
経過	開始年度	令和3年度	終了予定
	令和4年度		
<p>令和3年度 連携協定締結、実施計画の策定 実施の延期(予算の繰越)</p> <p>令和4年度 実施の再延期 実証実験の実施(11～12月)</p>			
議会質問 の状況	令和4年11月決算特別委員会 モビリティ社会実験の平井駅への乗り入れについて		
その他 特記事項			

予算・決算額推移（単位：千円）		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算現額（事業費）		-	-	-	5,558	8,531	-
A.決算額（令和5年度は見込み）		-	-	-	5,558	8,531	-
財源	国						
	都				1,056		
	その他						
一般財源		-	-	-	4,502	8,531	-
執行率（%）		-	-	-	100.0%	100.0%	-
B.人コスト					4,398	2,454	
総事業決算額（A+B）		-	-	-	9,956	10,985	
予算書P（令和5年度）	-	執行実績報告書P（令和4年度）			P147 4(2)		

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和3年度（決算）			令和4年度（決算）			令和5年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	計画策定支援外	5,225	委託料	交通規制案内板の作成	173			
補助金	オペレーター費用外	333	委託料(繰越明許)	アプリ利用外	1,166			
			補助金	運行経費補助	416			
			補助金(繰越明許)	運行経費等補助	6,776			

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	利用延べ人数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標			580			
		実績			157			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	1日当たり利用人数を10人と想定(1台あたり5人)した。							
目的に 対する指標 (成果指標)	指標	利用者満足度				単位	%	
	最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
			目標					
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標			80.0				
	実績			78.9				
指標の選定理由及び目標値の理由								
新しいデマンド型のサービスであり、受容度を測る尺度として利用者満足度が適当と思われるため								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	社会実験としてのモビリティ事業は、単年度事業とする。今後、事業成果を、地域公共交通計画の中で生かしていく。

課題・問題点
社会実験の期間が2か月間と短かったこともあり、当初想定していた利用者数の目標は達成できなかった。一方で、複数回利用した利用者もあり、利用者満足度も高かったことから、デマンド型のサービスに対する受容度はある程度確認できた。



# 令和5年度 補助金評価シート

補助金名	モビリティ運行経費の補助	主管課・係（担当）
根拠法令	AIオンデマンドバス実証運行に関する協定	都市計画課・公共交通担当
補助概要	運行にかかる収支不足額を補助	5608-1263
目的	区民の移動ニーズの把握、デマンド型サービスの受容度の測定	
対象	区民等	
基準	区独自基準	
補助条件	実績報告に基づき、収支不足額の全額を補助する。	
経過	開始年度	令和3年度
	終了予定	令和4年度
	令和3年度 連携協定締結、実施計画の策定 実施の延期（予算の繰越） 令和4年度 実施の再延期 実証実験の実施（11～12月）	
議会質問の状況	令和4年11月決算特別委員会 モビリティ社会実験の平井駅への乗り入れについて	
その他特記事項		

予算・決算額推移（千円）		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額（事業費）		-	-	-	333	7,192	-
決算額（令和5年度は見込み）		-	-	-	333	7,192	-
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		-	-	-	333	7,192	-
執行率（%）		-	-	-	100.0%	100.0%	-

補助金の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	利用延べ人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標			580			
		実績			157			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	1日当たり利用人数を10人と想定(1台あたり5人)した。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	利用者満足度				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標				80.0				
実績				78.9				
指標の選定理由及び目標値の理由								
新しいデマンド型のサービスであり、受容度を測る尺度として利用者満足度が適当と思われるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	社会実験としてのモビリティ事業は、単年度事業とする。今後、事業成果を、地域公共交通計画の中で生かしていく。

課題・問題点
社会実験の期間が2か月間と短かったこともあり、当初想定していた利用者数の目標は達成できなかった。一方で、複数回利用した利用者もあり、利用者満足度も高かったことから、デマンド型のサービスに対する受容度はある程度確認できた。